

「川根本町の観光客を増やすためには」

本川根中学校3年 山田悠太郎

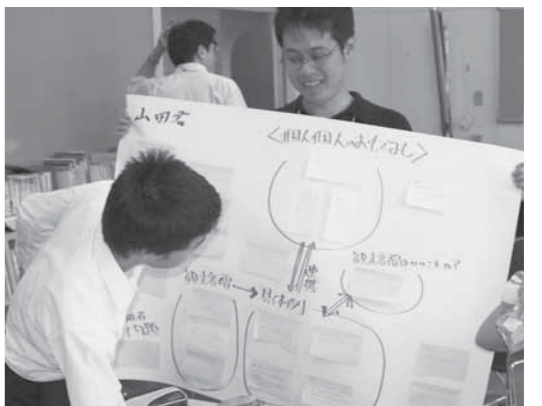
僕がこの「川根本町の観光客を増やすためには」をテーマに選んだ理由は、川根本町の観光について、今と昔ではどのように変わっているか、今後、何に取り組んでいかなければならないのか知りたかったからです。

川根本町は観光地として昔から有名なところだと思いますが、実際に観光客は増えているのか、減っているのか、今の状態を知りたいと思いました。

川根本町には接叡峡温泉、寸又峡温泉、白沢温泉、千頭温泉など豊富な温泉資源があります。また観光スポットとして、

フォーレなかかわね茶室、やまびこ資料館、長島ダムふれあい館、奥大井音戯の郷、ウッドハウスおろくほ、三ツ星天文台など数多くの観光施設があります。また、全国的にも有名なSLが運行する町であり、日本有数のお茶どころでもあります。

しかし、実際に観光とか観光客のことについて知らないことがたくさんあったので、まちづくり観光協会を訪問し、分からないことを教えてもらいました。そこで分かったことは、次のとおりです。



○観光客は増えているか、減っているか

観光客の種類として「宿泊客」と「日帰り客」に分けられています。それぞれについてみると「宿泊客」は減少しています。また、「日帰り客」は横ばいか増加している、という現状が分かりました。

○観光施設について

ハード（建物）を造るのは、たくさんのお金がかかってしまうので、今の時代ではなかなか難しいことです。気持ちの面、特に観光客に対しての接し方など、「もてなし」の部分充実させる必要があるようです。

○道路の状況について

まだまだしっかりとした道路の整備ができていない状態です。場所によって

は狭いところもたくさんあります。また、川根本町に来るまでに時間がかかってしまうなどの問題もあります。道路が狭いことは、シーズン中の渋滞や、交通規制など、様々な問題が発生する原因にもなっています。

○外国人観光客への対応

外国人の受け入れ体制について、川根本町はまだまだ整っていません。

○跡継ぎ問題

川根本町の色々な宿泊施設で、その宿の後を継いでくれる人が少なくなっています。

○これからやっていきたいこと

インターネットやパンフレットを使って、川根本町を他の町の人に知ってもらう。またはPRする。どこの観光施設でも、一番大事なことは観光客に良い雰囲気を与えること。僕たち中学生でも、道を教えてあげるなど、できることはある。建物やおもしろい施設を造るのも、観光客を増やすためには良いのかもしれないが、でもやっぱり、川根本町の町全体で、観光客を迎える気持ちが必要だ。

町民全体が観光客に対して関わっていくということ。川根本町が観光客であふれ、にぎわいのある町になってほしい。

そのために「僕たちにもできることがある」ということが分かり、これから僕はそれを実践していきたいと思っています。



「観光客をもてなすため、「僕にもできること」がある」と知りました。僕はこれから、自分にできることから実践していきたいと思っています。

「変わりゆく大井川 ～昔と今ではどう違うの～」

本川根中学校3年

中原僚介

僕が通う中学校の郷土資料室に1枚の写真があります。水を満々とたたえる大井川に帆かけ船が3艘浮かんでいる写真です。

それは、今と全然違う大井川の姿でした。僕は、なぜ大井川がこんなに変わってしまったのか知りたくなり、このテーマで研究を進めることにしました。

まず始めに、昔の大井川の姿について、大井川の保全運動を行っている小沢節子さんに話を聞きました。小沢さんの話では「昔の大井川には魚がたくさんいて、水がきれいで、ダムもなかった。釣り人がたくさんいて、豊富な水量があり、洪水が起こりやすく、大雨や台風で大きな被害が出た」ということでした。

次に、今と昔の大井川の違いを比べてみると多くのことに気づきました。

まず1つ目は、川の太さが違います。昔は、下流に行くに従って水が流れる部分は広がっていましたが、現在では、河原の幅は広がっていますが、水の流れる細いままです。ダムによる流量の変化が、大井川に大きな変化をもたらしたようです。ダムが多くなったことで、上流の土砂が下流に流れなくなり、上流の河床が高くなって下流の河床が低くなってしまいました。

このことよって、昔はよくあった淵とかが減ってしまいました。淵とは川が蛇行するときに見える水深が深い場所です。ここは昔の子供たちの楽しい遊び場に

昔のように豊富な水が流れる大井川になってほしい。僕は、大井川を見つめ、そして考え続けます。



もなっていたようです。淵が昔は多く存在した証拠に、青部地区には「淵」にまつわる昔話も残っています。

それから、大井川の水が減ったことで海にも影響は広がっています。土砂が流れなくなったため海岸の浸食が進み、昔美しかった浜辺は消えつつあります。また、ダムは川に棲む生物にも大きな影響を及ぼしたそうです。上流と下流の交流がないと、海から上がってくる魚（アユ、ウナギなど）は上流にこれず、放流した魚だけになってしまいました。水量の減少は私たちに深刻な被害をもたらしています。

では、大井川の水はどこに行ってしまったのでしょうか。大井川の水の多くは、導水管を通して下流に流れています。地下のトンネルを通して、各地に大井川の水が流れているのです。そして、トンネルを通れる水の量は、毎秒何トンにもなるのです。

これは海にも大きな影響を及ぼしています。川によって海に豊富なミネラルを含む栄養が運ばれています。しかし、その水が導水管を通して日の光を受けたり、自然の川の浄化作用によって浄化されたりせずに海に流れ着くため、海には栄養が届きません。そのため、相良や榛原付近の海中の大規模な海藻林が消失したという報告もあります。ここまで調べて、なぜそんなにも環境に負荷のかかるダムを建設するのか疑問になり、次にダムについて調査してみました。ダムができたおかげで、洪水や水不足がなくなりました。また、畑や生活用水が

どもにも利用されていて、私たちの生活に大きく役立っています。細かく説明すると大井川水系の水は、導水管を通して数回にわたり水力発電として利用され、川口発電所付近から、多くの市や町へ水を供給しているのです。この水がなければ、掛川や菊川そして藤枝焼津の人たちの多くが生活や仕事に不便をきたすことになると思います。

このように、ダムは現代の私たちの便利な生活をしっかりと支えてくれているものでした。環境の保全と生活の豊かさ、どちらも大切なことだと思います。大井川のダムの問題は考えれば考えるほど複雑で、僕なりの答えは見つかっていません。ただ、僕には理想の大井川像があります。それは水が豊富できれいな大井川の姿です。

そして、そのような川にするために私たちはどうしたらいいのでしょうか。

ダムのような大きな問題は今の僕たちの力ではどうしようもありません。でも川の汚染は、僕たちの心がけて簡単に改善できます。川にゴミを捨てない。川で遊んだり、キャンプなどをした後は、ゴミの後始末をしつかりする。生活排水を出さない。これは僕たちにもできることです。まずは身近なことから実践することが一番大切なことだと思います。昔に比べて大井川はだいぶ変わりました。僕はこれからも大井川を見つめ、これからの大井川について考えていきたいと思っています。